

シリーズ「きょうだいの思い」 37

私が出会ったきょうだいの中で、共に歩む会の10代の頃から途切れずに繋がりを持つ人がいる。私と同じ姉の立場だ。お互いに、障がいをもつきょうだいと同じ施設に通所していることもあって、年に2回の施設行事が、今は唯一会える場所でもある。

何年か前、わずか数年の間に続けて彼女の両親が亡くなった。お母様が亡くなって、まさしく『親亡き後』となった彼女に会った時に、私は思わず涙が溢れ出てしまった。

彼女は3人きょうだいで、末のきょうだいが障がいを持っている。もう1人きょうだいがいることが、私には素直に羨ましい。彼女自身も「もう1人のきょうだいと色んな事を分担して軽減できたり相談できることは心強い」と話す。

彼女のきょうだいは、ご両親が健在な頃からグループホームで生活をしていて、週末に自宅へ帰っていた。ご両親が亡くなり、考えに考えた末に実家を処分された。

きょうだいはお盆やお正月の長期休み以外はずっとグループホームで生活している。

長期休みの時には、前半・後半と分担して、2人のきょうだいの自宅で過ごしていると聞いた。

一つ一つの話の間隔に、澁んだ気持ちになってしまう。昔から飾らない間柄の付き合いが続いているが、その中でも『言葉にしなくてもわかるきょうだいゆえの気持ち』を察することが出来ていた。でも今は、彼女との会話では明確な『言葉』となって『本音』が出てくるようになった。

私も彼女も、きょうだいを大事に想う気持は同じだ。でもやっぱり、きょうだいは親以上になれない。

私達には自分の家庭があって、夫や子どもがまず1番目なのである。そう思いながらも、きょうだいを大切に想う気持と自分の家族を大切にしたい気持の狭間で、両者のどちらにも後ろめたさを感じながら立っている。

つづく

前穂通信

まえほつうしん

発行日	2015年7月1日
発行元	自立センター前穂 〒569-1022 高槻市日吉台 1番町21-18 072-689-8600



高槻市集団指導に参加して

6月15日(月)に高槻市総合センターにおいて高槻市集団指導に参加して参りました。虐待研修、地域生活支援の報酬改定などの説明を受け、今後とも法令遵守のもと、より良いサービスを提供できるよう、心がけて参ります。

通信後記

昨今の目まぐるしく変わる社会情勢の中で、社会資源としての前穂がどのように社会の役にたてる事業所であるか？どうすれば障がいをお持ちの方々や、ご家族に寄り添える施設であるか？を考え、安心してご利用頂けるような前穂でありたいと、試行錯誤の日々を送っております。

毎日のご利用や緊急対応、社会参加などのサービス提供は勿論のこと、知的養成研修の定期的な開催、現在の各種プログラムの充実(芸術プログラムの展開、新しい運動プログラムの提案、登山プログラムの進化)など、今後更に進んで参りたいと存じます。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。